特集『高校魅力化プロジェクト』を知る

地域との協働で変革、飛躍！

～島前と共に歩む

昨年度に悲願の学級増を実現し、「過疎化が進む離島の学校としては奇跡的」と全国の注目を集めた県立隠岐島前高校（以下、島前高）は、平成25年度も2クラスを継続し、新入生45名を迎えています。

5年前には生徒減で学校存続の危機に瀕していた島前高。もし高校が無くなれば、15～18歳の若者が島から消えるばかりか子どもをもつ世帯のU・Iターンも減ることで人口減少に直結し、地域の活力が減るのは明白です。

そこで、「島前の存続のためにも高校を無くすわけにはいかない！」と中長期的な視野で進められている高校改革こそ、『高校魅力化プロジェクト』。20年度に策定した「高校魅力化構想」に沿って、地域密着型の授業やキャリア教育（夢に向かう力をつける教育）など、独創的な施策を次々と実践してきました。

取り組みの特色は大きく3つあります。

1つ目は、地域の担い手の育成。新たな事業を創造していける地域起業家的な精神をもつ人材の育成を目指し、ふるさと教育をベースに地域の課題解決に取り組む授業などを行っています。

2つ目は、きめ細かい教育環境の整備。小規模を逆手に取った少人数授業と個別指導の充実、更に公営塾「隠岐國学習センター」との連携で、進学希望の実現を丁寧に支えます。

そして3つ目は島留学（※1）。生徒数の増加を狙うだけではなく、全国から意欲の高い入学生を受け入れることで島の子たちに良い刺激をもたらし、学力や生きる力を相互に伸ばしあうことを目指しています。

島前からの働きかけを受け、島根県では23年度から離島・中山間地の高校魅力化・活性化事業を開始。24年度には標準法の改正（※2）も実現し、平成20年度に15人であった教員数が25年度には28人に増えました。魅力化プロジェクトは、着々と成果を積み上げています。

（※1）**島留学**

全国から意欲と能力の高い生徒を受け入れる制度。諸条件を満たす学生には寮費や里帰り交通費の半額等を補助する。生徒数を確保するだけでなく、最大の狙いは、異文化や多様性を学校内に取り込むことで地元生徒に刺激を与え、高校の活性化を図ること。

（※2）**標準法の改正**

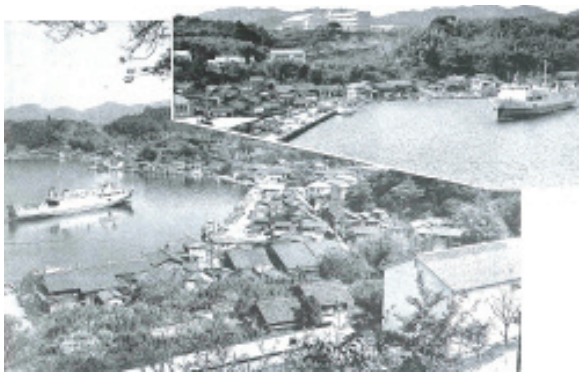
標準法とは、昭和36年に学校の適正規模化を目的に制定された「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」のこと。教員数は標準法によって全国一律の基準で算定されるため、中山間僻地や離島の小規模校では極端に少なく、受けられる教育に大きな格差が生じる。このような現状を打破し教育の機会均等を実現すべく、粘り強く要望し続けた結果、このたびの法改正が実現した。離島の高校から働きかけて法律が改正されるのは異例。

■隠岐島前高等学校の主な沿革と、高校魅力化プロジェクトの歩み

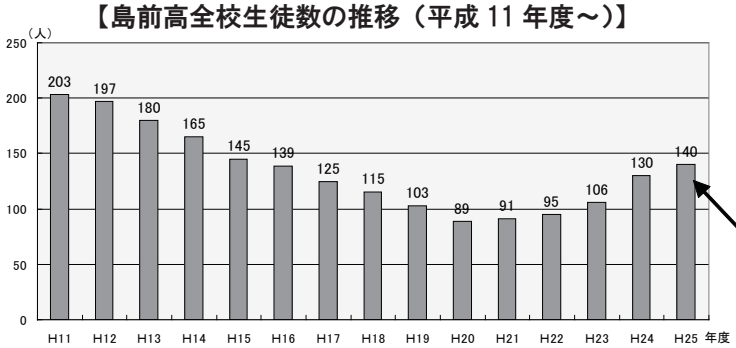
昭和30年4月13日
分校の開校式と第1回入学式

昭和	30（1955）年	島根県立隠岐高校の島前分校（定時制）として開校
	33（1958）年	分校として全国で初めて、全日制に切り替え
	40（1965）年	島根県立隠岐島前高校となる（普通科、各学年２クラス）
	48（1973）年	新校舎竣工式
	51（1976）年	寄宿舎（鏡浦寮）開設
平成	2 （1990）年	校訓制定 『真理・理想・進取』
	5 （1993）年	寄宿舎、新築移転工事完了
	6 （1994）年	格技場（道場）整備完了
	12（2000）年	「離島の小さな高校、全国フォーラム・イン隠岐」開催。
	14（2002）年	屋内運動場（体育館）竣工記念式典
	17（2005）年	創立50周年記念式典
	20（2008）年	全学年１学級に。地元の子どもの55％が島外の高校へ進学し、入学者は２８人まで激減、統廃合の危機。魅力化の会（※３）が発足、１年かけて「魅力化構想」を策定
	21（2009）年	島前高校長と島前３町村長が県知事と県教育長へ「魅力化構想」を提言（２月）。４月から「高校魅力化プロジェクト」が本格始動
		観光甲子園で「ヒトツナギ」（※４）がグランプリ（文部科学大臣賞）受賞
	22（2010）年	「島留学」制度スタート
		学校連携型の公営塾「隠岐國学習センター」開所。独自のプログラムを展開
	23（2011）年	「地域創造コース」と「特別進学コース」の２コース制開始（２・３年）
		キャリア教育推進連携表彰（文科省・経産省）受賞
	24（2012）年	１年生の２クラス化が実現！全国から注目集め視察も急増。標準法一部改正
	25（2013）年	新入生４５名のうち19名は県外生。平成26年度全クラス２クラス化決定 学習センターが、西ノ島中学校３年生に学習会開始。プラチナ大賞受賞 今年度中に「新・魅力化構想」を県へ提言する予定

古くから島前高名物の体育祭



【島前高全校生徒数の推移（平成11年度～）】



	1年生	2年生	3年生	全校
生徒数	45	56	39	140
島外の生徒	22	21	11	54

（※３）**魅力化の会**
高校と島前３町村の町村長、議長、教育長、中学校長らによる高校改革の推進母体。正式には、『隠岐島前高等学校の魅力化と永遠の発展の会』。会長は海士町長。この会の下部組織として、教員と行政、保護者、住民等によるワーキンググループを結成し、魅力化構想を練り上げた。

（※４）**ヒトツナギ**
地元の生徒と島外の生徒ら有志が作り上げた、独自の観光プラン。交流や、人どうしのつながりを観光資源ととらえた点が特徴で、全国の高校生が競う「第一回 観光甲子園」で日本一に輝く。翌年、この企画を考えたメンバーは実際に全国から参加者を集めてツアーを現実化。以後毎年継続実施しており、中学時代のツアー参加者が実際に島前高へ島留学してくるケースも。25年度からは部活動に昇格。